

しなければならない破目に陥った方には懇切丁寧に、詳細にわたって、かつ無料で、お話しあげたいと思う。「旅は道づれ、世は情」というのに、道づれがないのだから。

しかし、どう考えても、外国語はできないよりもできた方がよいということだけは、間違いない——というのが私の結論である。

(社会保険庁)

## 社会保障こぼれ話

### 社会保障の推進

——ユーゴスラヴィア——

ユーゴスラヴィアは、1929年に王国となり。その後、1945年に連邦人民共和国という形になっている。この国には、王国と改称される以前つまり、1922年に年金保険、疾病保険および労働災害保険が、すでに採用され、さらに、1927年には、失業給付の制度が設けられていた。もっとも、これらのうち、年金保険は1937年から実施されている。

以上に示されるように、この国の社会保険制度は、いずれも、被用者を対象として、第1次世界大戦以後の短期間に、急いで採用されている。このように急速に社会保険が実現されてきた背景には、その当時きわめて激しかった労働運動が指摘される。第1次大戦以後、各国で急速に労働運動が発達し、しかも激しい労働運動が展開されており、この国もまた例外ではなか

った。この国でも、労働運動の要求の中に社会保険の採用が含まれていたが、社会不安を緩和する一つ的手段として、社会保険の実現が不可欠となり前述したように、いくつかの社会保険が実現されてきた。

しかも、1928年以後、労働組合は優勢な立場を利用して、従来の法律を改廃し、また、前にも述べたように、1937年には法律が死文化していた老齢年金制度を実施させている。第2次大戦まで、社会保険は除々に発達してきたが、1945年に共和国となってからは、新しい経済・社会体制のもとで、社会保険の発達はすっかり面目を一新している。

いずれにしても、この国では、社会保険の採用と発達に、労働運動の果たした役割がきわめて大きく評価されている。

これは、社会保障の推進力として、労働運動が強調されている一例といえる。

(平石長久 社会保障研究所)